

インドキシル硫酸について

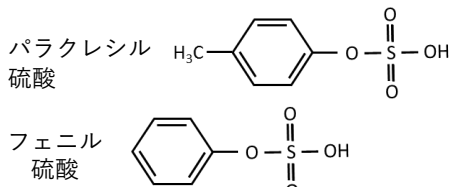
臨床的意義（測定意義）

タンパク質の構成要素であるトリプトファンが腸内細菌叢により、インドールに分解され、さらに肝臓内で硫酸抱合を受けた結果、インドキシル硫酸が生成します。

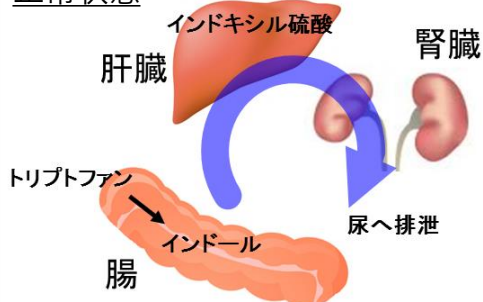
通常、インドキシル硫酸は腎臓から尿中へ速やかに排泄されますが、慢性腎不全では腎クリアランスが低下し、血中のインドキシル硫酸濃度が増加します。

また、インドキシル硫酸は腸内細菌叢の環境変化により増減するため、腸内環境の指標としても利用されます。

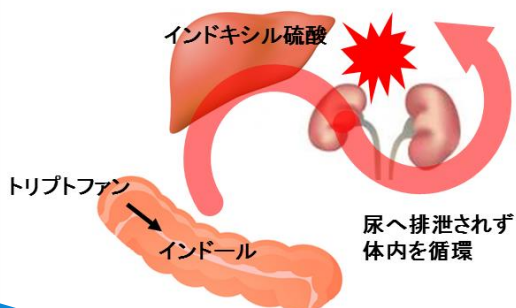
パラクレシル硫酸、フェニル硫酸も、インドキシル硫酸同様、尿毒素のひとつとして知られています。



正常状態



慢性腎不全



インドキシル硫酸バリデーション結果

項目	評価方法	結果
日内再現性	N = 5 の CV 値	CV < 15 %
日間再現性	N = 5、3 日間の CV 値	CV < 15 %
真度	真値からの乖離	RE < 15 %
検量線直線性	検量線からの乖離	R < 0.99 RE < 15 %
添加回収率	回収率	RE < 30 %
前処理後安定性	4 °C 48 時間放置	RE < 15 %
選択性	ピーク形状	ピーク形状が単一
短期安定性	室温 24 時間放置	RE < 15 %

お問い合わせ



KPSL
九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://www.kpsl.jp/>